

今週のメニュー

■トピックス

◇APVN 会合（ジャカルタ）

■随想

◇2002年 レバノン旅行記（6）－美食の国－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇APVN 会合（ジャカルタ）

アジア地域における塩ビの環境問題などについて情報交換する一般社団法人 APVN（Asia Pacific Vinyl Network）の会合およびセミナーが、9月26日、インドネシアのジャカルタのプルマンホテルで開催されました。

各国が行ったプレゼンテーションおよびセミナーの中から興味深い情報を紹介するとともに、ジャカルタを訪れた際の印象について紹介します。



会場のホテル



会議の様子



日本の報告（関専務理事）

APVN は、アジア地域での塩ビ関連情報の普及などを目的に 1999 年、塩ビ工業・環境協会（VEC）の呼びかけにより設立した組織で、アジア太平洋地域の塩ビ関連会社や団体をメンバーに、環境問題を通じて塩ビについての正しい情報の普及活動を行っている組織です（日本では VEC が会員となっております）。

通算 22 回目となる今回の会合では、各国の塩ビを取り巻く状況や政策動向、更にはリサイクル・環境対応などについて、最新情報の報告が行われました。報告の中で、塩ビ製品でグリーン認証を受けた例の紹介が各国からあり、塩ビの特性および有用性が各国で着々と評価されていることがうかがえました。医療用品の PVC リサイクル活動を推進しているオーストラリアからは、点滴袋の回収対象の病院数が 100 を超えた、と塩ビのリサイクル活動が着々と進んでいる事例紹介がありました。日本からは、壁紙のリサイクルに関する話題も提供しました。環境規制に対する報告等も含め、持続可能な塩ビをめざした各国の様々な取り組み等を共有することができた会合となりました。

また、本会合の後に行われましたセミナーでは、塩ビの世界的な動向（可塑剤・鉛系安定剤に関する規制動向、欧州、米国、豪州の各塩ビ協会のポリシー等）についての報告、

インドネシアのプラスチック廃棄物管理についての報告、および APVN メンバー会社による CSR 活動についての報告がありました。

インドネシアの廃棄物管理に関する報告では、Widodo 首相が 2017 年 G20 会合にて「プラスチックおよび海洋ごみに関する国家プランとして、2025 年までに廃 3R 率を 30%まで上げ、海洋ごみを 70%削減する」と宣言したこと、収集・分別、回収・処理、その為のルールおよび国民に対する啓蒙活動を推進しており、ごみ箱の色・表記を区別して収集段階で分別していること、の説明があり、廃棄物管理に強く取り組んでいく姿勢が感じられました。

APVN メンバー会社による CSR 活動では、PT Asahimas Chemical（インドネシア、今回の APVN 会合のホスト国）がサンゴ礁の保護を目的に行っている PVC パイプを用いたサンゴの養殖の紹介がありました。PVC で作成した骨格（キューブ状とピラミッド状の 2 種類）に種となるサンゴを取り付け、海に沈めてサンゴを育てる、という活動です。藻を取り除くために 3 ヶ月ごとに掃除をして育てたところ、従来的人工サンゴでは 1cm/年だった成長速度がこの方法では 8 か月間で 1~1.5cm と、従来よりも早く成長したとのこと。今後もこのサンゴ養殖活動の更なる拡大を計画されていました。現在、世界のサンゴの 3 分の 1 が絶滅の危機にあるといわれる中、PVC がこのような形で活用されていることには驚かされました。



サンゴの種をつけて



海に沈めて



3 ヶ月毎にお掃除



成長中

(Copyright of ASC)

最後に、ジャカルタの印象ですが、空港からホテルに移動する際、大規模な建設工事に度々遭遇し、ホテル周りには巨大なショッピングセンターが複数あるなど、国としての勢いを感じました。



インドネシア高速鉄道建設中



大気モニタリング電光掲示板



ゴミ箱(色別表示)

■ 随想

◇2002年 レバノン旅行記（6）－美食の国－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

中近東はヨーロッパと比べ物価が安いといわれていますが、レバノンはちょっと違います。これといった産業を持たないレバノン。内戦前はフェニキア時代から培った、中継貿易によるヨーロッパと中近東、東南アジアとの中継点として、そして、貿易には付きものの金融センターとしての地位を確立していました。

しかし、内戦によって全てが崩壊した現在、一からの出直しを図っています。

農産物や一部の食料品を除き、ほとんどが輸入品に頼っているレバノンですから物価はヨーロッパ並み。国内産のものは激安なので、価格のコントラストがはっきりしています。

例えばコーラ。

ペプシコーラはレバノン国内に工場を持っていますがコカコーラは持っていません。同じ、缶コーラの値段を比べてみると。

ペプシコーラ 750 レバノン・ポンド（2002年当時のレートで 60円）

コカコーラ 3000 レバノン・ポンド（2002年当時のレートで 240円）

これじゃあ、コカコーラは売れません。

このため、輸入品を選ばなければ、物価は日本よりかなり安いです。

例えば食事代。

レバノン料理はアラブ料理の代表までいわれ、現在のレバノン料理はアラビア料理のいいところと、フランス植民地時代に学んだフランス料理のいいところが合わさっています。だから、何を食べても美味しいです。

ローカルの食材を使ったレバノン料理ならそれほど高くもありません。

ちゃんとしたレストランでレバノン料理のフルコースを食べたとしても 15,000 レバノン・ポンド位（2002年当時のレートで 1,200円）。

これに、やはり地中海性気候で出来る良質の葡萄を使い、世界の有名な賞を取った高級レバノン・ワインをボトルで飲んでも 30,000 レバノン・ポンド位（2002年当時のレートで 2,400円）。食いしん坊には天国です。

レバノン料理ですが、アラビア料理は串焼きのシシカバブというイメージがありますが、実際には野菜とヨーグルトが沢山使われており、他の中近東の国と比べ、レバノンはあまり羊や鳥など肉の消費量が多くありません。

典型的なレバノン家庭料理は、

アラビア風パン

バターの代わりに、ヨーグルトにトマトやバジルを刻んで入れ、ちょっとオリーブオイルをたらしたペースト

トマトやキュウリ、ミント、その他季節の野菜を細かく刻んだアラビア風サラダ

オリーブの実

生のピスタチオ・ナッツ

メインはほうれん草のシチュー
アラビア風コーヒー

なかなか健康的なメニューです。

しかし、若い人はファーストフードが大好き。
レバノン中に、マクドナルド、ピザハット、バーガーキング、ケンタッキー、スターバックス、31 アイスクリームなど日本でもおなじみのお店があり、夜遅くまで若者で賑わっています。
ベイルートには“Hard Rock Cafe”もあります。

右の写真はベイルートにある Hard Rock Cafe
とマクドナルド。
1990年当時、この場所にシリア軍の検問所がありました。
こっそり写真を撮ったら、見つかって銃を向けられた記憶が…



日本料理店も増えて来ているようで、今回、気が付いただけでもベイルート市内に4店（うち1店は内戦前からある老舗です）、郊外に1店（こちらは居酒屋だそうです。レバノン人も居酒屋に行くのかな？）。
お寿司屋さんはレバノン人のお客様たちで、結構混んでいました。

※ レバノン内戦前から、内戦中も店を閉めず営業をしていた日本料理店「東京レストラン」、2004年に閉店したそうです。

(つづく)

次回は、(7) -レバノンの光と影- です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp